

新規事業採択時評価結果（平成28年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：川崎 茂信

事業の概要

事業名	一般国道1号藤枝バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：静岡県藤枝市仮宿 至：静岡県島田市野田	延長	10.7km		
<b>事業概要</b> 一般国道1号藤枝バイパスは、国道1号の交通渋滞の改善により企業活動の支援及び市街地部の交通安全の確保を目的に計画された、静岡県藤枝市仮宿から島田市野田に至る延長10.7kmの道路。					
<b>事業の目的、必要性</b> 対象区間の整備により、沿線で計画されている4車線化を見据えた民間投資の拡大など、活発化する企業活動を支援するとともに、市街地部の通学路をはじめとする、生活道路の安心・安全を確保。					
全体事業費	約300億円	計画交通量	約57,000台/日		
<b>事業概要図</b> 					

**関係する地方公共団体等の意見**  
 藤枝バイパスは、藤枝市における内陸フロンティア推進区域や既存工業団地、広域防災拠点である富士山静岡空港とのアクセス道路として重要な路線であることから、藤枝バイパスの円滑な交通を確保することは重要な課題です。静岡県としても上記各拠点へアクセスする道路ネットワークの強化を図るため、地域の南北路線の整備を進めているところであり、藤枝バイパスの4車線化事業に併せて一層の推進をしていきます。地域経済の活性化や災害時の対応強化等、ストック効果が最大限に発揮されるよう、静岡県としても国・市と一体となって広域的な道路ネットワークの整備を進めると共に、藤枝バイパスの事業推進に向けて連携して取り組んでいくためにも、「国道1号 藤枝バイパス全線4車線化」の新規事業化と事業推進を強く希望します。

**学識経験者等の第三者委員会の意見**  
 新規事業化については妥当である。

**事業採択の前提条件**  
 ・費用対便益：便益が費用を上回っている。  
 ・手続きの完了：都市計画決定手続き完了(藤枝市:S46.3、島田市:S48.8)

事業評価結果

費用便益分析	B/C	3.6	総費用 242億円 (事業費: 220億円 維持管理費: 22億円)	総便益 864億円 (走行時間短縮便益: 608億円 走行経費減少便益: 167億円 交通事故減少便益: 89億円)	基準年 平成27年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=3.2 (交通量 -10%)	B/C=4.0 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=3.3 (事業費変動 +10%)	B/C=4.0 (事業費変動 -10%)	
	事業期間変	B/C=3.3 (事業期間変動 +20%)	B/C=3.9 (事業期間変動 -20%)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	国道1号の物流の安定性が確保され、沿線地域の企業活動を支援 【渋滞損失時間の改善】 現況 約139万人時間/年 → 整備後 約46万人時間/年 (7割減少) 【1kmあたり渋滞損失時間】 現況 約13万人時間/年・km → 整備後 約4万人時間/年・km (7割減少) ※静岡県平均: 約11万人時間/年・km 【渋滞度曲線】 中部管内直轄路線の4車線化・未事業化区間でワースト1位	
		事故対策	○	国道1号の安全性が確保され、沿線地域の住民生活を支援 【死傷事故率】 現況 約143件/億台km (内谷～広幡間) → 整備後 約29件/億台km (8割減少) ※静岡直轄平均: 85件/億台km 【事故率曲線】 静岡県内直轄路線の専道区間でワースト3位 (事業中区間除く) ※車線あたり死傷事故率	
	歩行空間	-	注目すべき影響はない。		
	社会全体への影響	住民生活	◎	市街地部への迂回交通が減少し、生活道路の安全・安心を確保 [藤枝市街地の死傷事故率] 現況 234件/億台km 整備後 185件/億台km (約2割減) ※国道を除く、一般県道・主要地方道を対象	
		地域経済	-	注目すべき影響はない。	
災害		-	注目すべき影響はない。		
環境		-	注目すべき影響はない。		
	地域社会	◎	民間投資の拡大、企業活動活性化に貢献 (現在) 藤枝市内への企業進出に対する問合せ企業が近年増加傾向 (今後) 4車線化を見据えた事業規模の拡大や新たな工業団地の立地が見込まれる		
事業実施環境	○	・都市計画決定手続き完了 (藤枝市:S46.3、島田市:S48.8) ・国道1号藤枝バイパス整備促進委員会より早期事業化を要望。			

採択の理由

費用便益比が3.6と便益が費用を上回っているとともに、都市計画決定手続きが完了していることから、事業採択の前提条件が確認できる。  
 また、国道1号の国道1号藤枝バイパスの交通の速達性が確保され、藤枝・島田市内の民間投資拡大や企業活動の活性化を支援するとともに、救急搬送時間短縮に伴う医療圏の拡大により、救急医療活動の円滑化を支援することから、事業の必要性・効果は高いと判断出来る  
 以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。